

祝

日本遺産認定

もう、すべらせない!!

龍田古道の心臓部『亀の瀬』を越えてゆけ

あの山を越えれば

企画展

# 龍田古道

たつたこどう

5月21日(木) ▶ 8月23日(日)

主催：柏原市教育委員会・三郷町教育委員会

## 市民歴史大学「古道をゆく」

●8月9日(日) 13:30~15:00

市 大樹 氏 (大阪大学 教授)

『日本古代国家と道』

## 文化財講演会

●8月22日(土) 13:00~16:00

大塚 慎也 氏 (三郷町教育委員会)

『龍田大社の信仰と龍田古道』

井上 さやか 氏 (奈良県立万葉文化館)

『万葉歌と龍田道』

## 各講演会共通

【定員】70名 【会場】当館3階 研修室 【申込】不要 【参加費】200円

※当日、9:30より整理券を配布します。

## 柏原市立歴史資料館

月曜休館 (祝日は開館) 入館無料

9:30~17:00 (入館は16:30まで)

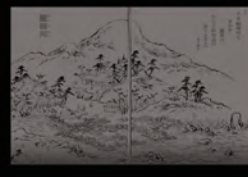
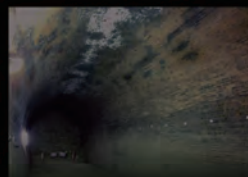
大阪府柏原市高井田1598-1

電話:072-976-3430

JR大和路線 高井田駅から 徒歩約5分

近鉄大阪線 河内国分駅から 徒歩約15分

館内では、マスクの着用、手指の消毒、対人距離の確保をお願いいたします。



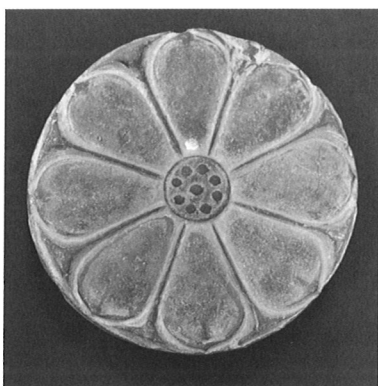
# 龍田古道

～あの山を越えれば～

奈良盆地の水を集めた大和川は、生駒山地と金剛山地のあいだを抜け、大阪平野へと流れ出します。この大和川に沿った山越えの道を「龍田道」あるいは「龍田越」といい、古代から大阪（河内）と奈良（大和）を結ぶ道でした。龍田道は数本のルートに分かれており、ここではそれらを総称して「龍田古道」と呼ぶことにします。

大阪と奈良との府県境付近で、大和川の川幅がもっとも狭くなっているところを「亀の瀬」と呼びます。亀の瀬は、地すべりの多発する危険なところですが、その美しい景観が『万葉集』に多くの歌を残すことにもなっています。また、亀の瀬の北側の山々を総称して「龍田山」と呼んでいました。龍田山は、都人に大和と外の世界を区切る山と強く意識されていたようです。『万葉集』には、龍田山を故郷大和のシンボルとして詠んだ望郷の歌もあります。

地すべりという危険を伴いながらも、龍田古道は重要な道でした。それは、河内と大和の国境を越える道の中で、最も高低差が小さい道だったからです。人々は、道中の安全を神々に祈りながら峠を越えていきました。その龍田古道の歴史を振り返りながら、「あの山を越えれば」という古代の人々の思いに迫ってみたいと思います。



軒丸瓦（船橋遺跡）



墨画人面土器（安堂遺跡）



木簡（安堂遺跡）

## —主な展示資料—

平隆寺出土軒瓦（平隆寺所蔵）、和州平群郡立野龍田本宮（龍田大社所蔵）、船橋廃寺出土軒瓦、青谷遺跡出土軒瓦、河内国分寺跡出土軒瓦、安堂遺跡出土墨画人面土器・墨書土器・木簡・木製品・種子・土師器・須恵器、智識寺跡出土軒瓦、山下寺跡出土軒瓦、大里寺跡出土軒瓦・墨書土器、家原寺跡出土軒瓦、鳥坂寺跡出土軒瓦・墨書土器、東野家文書、堅山家文書、亀の瀬地すべり絵はがき（以上当館所蔵）、澤戔三氏撮影写真、龍田百人一首人形、柏原市市民歴史クラブ作製模型など。